



鶴ヶ島市防災ラジオ

Q

防災ラジオの使用状況と今後について



出雲敏太郎 議員

A

すでに約4170台を給付 今後も続ける

質問一 防災ラジオについて、市民からの意見は。

二 防災ラジオの使用状況についての把握は。

三 防災ラジオの今後の活用は。

答弁一（市長） 防災行政無線の放送が聞き取れるようになったという声がある反面、音が出ない、雑音が入るなどの声もあったが、個々に相談に応じた結果、設置場所の変更やアンテナの伸ばし方などでほとんどが解消できた。

二 日常的な利用方法については把握していない。すでに利用している方から便利であるとの評判を聞き、新たに申請にこられる方が多いので、おおむね好評であると考えている。

三 防災行政無線は、市民や市を訪れている方へ防災情報を一斉に

伝達する最も有効な手段だが、気密性の高い住宅や拡声器から離れている地域では聞き取りにくい場合がある。

これを補う防災ラジオは、室内であっても確実に重要な情報を得られると同時に、災害時には貴重な情報入手手段となることから、引き続き希望者に給付し、防災行政無線と連動した情報の提供を続けていく。

◎**その他の質問** 市の情報管理等について

A

歯の健康づくりに取り組む

Q

子どもの虫歯予防について

五伝木隆幸 議員



質問一 乳幼児期の虫歯の状況と予防への取り組みについて。

二 学童期の状況と予防について。

三 保健センターでの歯科衛生士の配置状況と業務内容は。

四 歯科医師会との協議は。

五 小中学校で、フッ化物洗口の実施をすることへの見解は。

答弁一（市長） 3歳児の1人平均の虫歯本数は、平成24年度は0・58本で、減少傾向にある。乳幼児健診や2歳児歯科健診の中で歯科診察、歯みがき指導等を実施している。

二（教育委員長） 24年度の12歳児の1人平均虫歯本数は、2・0

三（市長） 一般職非常勤職員の歯科衛生士2人を配置。業務は乳幼児健診、歯科保健指導、健康教育、講話、口腔衛生指導等である。

四 子どもの虫歯の状況を分析し、虫歯予防対策を効果的に推進するために、坂戸鶴ヶ島歯科医師会と協議を行っている。

五（教育委員長） フッ化物洗口は、児童生徒の虫歯予防に効果があると考えているが、保護者への説明と理解が重要である。



給食後に歯磨きをする子どもたち